

<川越市>

## 川越市泉町イズミ工業跡地の土壌汚染問題

### 市民不在を開き直る川越市へ贈る「憤怒の書」

#### 本紙が追及してきた泉町の環境汚染疑惑

[公開質問書](#)

[再質問書](#)

[再々質問書](#)

本紙からの3回にわたる公開質問書に対して、川越市は形式的な対応に過ぎない、また、なによりも市民に向けた誠意と責任感のかけらもない回答に終始した。本紙は、本件問題についてこれ以上の声明は発信しない。

なぜか？腐り果てた地に実は成らないからだ。地を耕そうとする者がいない国が栄えることはない。

本件泉町問題については市政だけではなく「この国」の民度が問われていた。本来はその地に暮らす人々が、その声を代弁すべき市議たちが驕り高ぶる市に憤激すべきが本件問題であった。

環境汚染の「終焉」が、20年、30年の短期間で見えるものではないことは国内外の土壌汚染事件・事故が物語っている。だからこそ、どの自治体もモニタリング調査は半永久的に継続する。

しかし、川越市は意図的に断固としてモニタリングを拒否してきた。

市民の要求に応じることが、自身の敗北であると信じているような常軌を逸した首長の下では、環境監視の要不要を協議する民主政治さえ機能しない。本件問題に限らず歴史ある川越を、腐り果てた卑小で邪悪な個人の牙城に貶めた者は誰なのか？

眼を開けた市民であれば承知していることだろう。

ここに掲載するものは、腐り果てた川越市政に対してさえ市井のジャーナリズムとしての矜持を忘れないために、泉町問題における公開質問書の「[補遺](#)」とした本紙からの「[憤怒の書](#)」である。

令和 2 年 11 月 9 日

行政調査新聞社 社主 松本 州弘